

《担当者名》岩尾一生（薬）

【概要】

臨床検査技師は、臨床検査の観点から医薬品の有効性（薬理作用）や安全性（副作用・毒性）の評価に関わるため、患者に投与された薬物の体内動態や作用機序を理解し、体内動態に影響を及ぼす患者因子（高齢者・腎機能障害・肝機能障害等）、薬物間相互作用、薬物と食品やサプリメントとの相互作用、副作用の知識を習得する。あわせて、各種検査に及ぼす薬剤の種類、尿中・血中薬物濃度などに関する臨床検査を理解する。

本講義では、1) 薬物の体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）、2) 薬物の作用様式と機序、3) 検査に影響を及ぼす薬物、4) 薬物の副作用と毒性、5) 薬物療法における臨床検査技師の役割、6) 臨床において広く使用される薬物の作用と副作用について学習する。

【学修目標】

- 1) 臨床検査の観点から医薬品の有効性を評価に関わるために、臨床検査技師に必要な薬物の種類、体内動態あるいは作用機序について説明することができる。
- 2) 臨床検査の観点から医薬品の有効性を評価に関わるために、薬物間相互作用、薬物と食品やサプリメントとの相互作用について説明することができる。
- 3) 臨床検査の観点から医薬品の有効性や安全性について情報提供するために、医薬品添付文書等の情報源から、相互作用、検査値への影響、尿中・血中薬物濃度について調べることができる。
- 4) 医療チームの一員として薬物療法へ参画するために、薬物の尿中や血中濃度から、治療効果や副作用について説明することができる。
- 5) 医療チームの一員として薬物療法へ参画するために、各々の疾患を理解し、薬物療法の目的、治療効果と副作用について説明することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	疾患と薬物療法	・医療と疾患（教科書p12～16） ・薬物療法（教科書p17～25） ・薬物の投与経路（教科書p39～53）	岩尾一生
2	薬物の体内動態	・薬物動態（教科書p54～63） ・薬物間相互作用（教科書p64～67） ・薬物と食品やサプリメントとの相互作用（プリントを配布）	岩尾一生
3	薬物の作用機序	・シグナル伝達と薬物（教科書p68～70） ・リガンド、アゴニスト、アンタゴニスト（教科書p71～74） ・抗体医薬（教科書p75～78）	岩尾一生
4	医薬品の開発	・新薬の開発（教科書p29～35） ・個別化薬理学（教科書p36～38） ・薬害（教科書p26～28）	岩尾一生
5	検査値へ影響を及ぼす薬物、尿中・血中薬物濃度	・医薬品添付文書の読み方（プリントを配布） ・検査値へ影響を及ぼす薬物（プリントを配布） ・尿中や血中の薬物濃度（プリントを配布）	岩尾一生
6	薬物療法における臨床検査技師の役割	・薬物療法における臨床検査技師の役割（プリントを配布） 中間試験（60分）	岩尾一生
7	消化器・呼吸器に作用する薬物	・消化器に作用する薬物（教科書p80～109） ・呼吸器に作用する薬物（教科書p150～164）	岩尾一生
8	循環器・血液に作用する薬物	・降圧薬、狭心症薬（教科書p112～132）	岩尾一生
9	循環器・血液に作用する薬物	・心不全薬、抗不整脈薬、利尿薬、貧血治療薬（教科書p133～147）	岩尾一生
10	内分泌に作用する薬物	・内分泌に作用する薬物（教科書p166～202）	岩尾一生
11	神経に作用する薬物	・神経に作用する薬物（教科書p204～241）	岩尾一生
12	神経に作用する薬物	・神経に作用する薬物（教科書p242～269）	岩尾一生

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
13	感染症治療薬	・感染症治療薬、消毒薬（教科書p272～293）	岩尾一生
14	抗がん薬	・抗がん薬（教科書p296～316）	岩尾一生
15	抗炎症薬、抗アレルギー薬	・NSAID、膠原病、痛風治療薬、抗アレルギー薬（教科書p318～333）	岩尾一生

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 70% 中間試験 30%

【教科書】

「FLASH薬理学」丸山敬 著、羊土社 第1刷（2018年10月15日発行）

【参考書】

「これならわかる！薬理学」丸山敬 著、ナツメ社 第8刷（2017年6月30日発行）

「薬の影響を考える臨床検査値ハンドブック第3版」木村聡、三浦雅一 著、じほう 第3版（平成29年2月25日発行）

「保健機能食品学」一般社団法人日本食品安全協会、山菊印刷株式会社（平成29年4月30日発行）

【備考】

教科書を補足する資料として、毎回プリントを配布する。

【学修の準備】

次回の授業内容について、指定した教科書を事前に読んでおくこと（60分）。

受講した授業内容について、配布されたプリントや指定した教科書に掲載されている「応用問題」で復習すること（60分）。

6回目の講義（講義時間前半）で中間試験を実施する（45分）。

【ディプロマポリシーとの関連性】

（DP1）生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。

（DP2）臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

【実務経験】

薬剤師

【実務経験を活かした教育内容】

北海道医療大学病院での実務経験を活かし、臨床検査に影響を及ぼす薬物の特性から医療チームの一員として薬物療法へ参画するために、臨床検査技師として必要な薬理学の基本的知識を講義する。